

鷗外文学に見た明治女性の理想像
— 『半日』における「疎外者」を中心に —

The Image of the Ideal Women in Meiji Era :
The “Outsider” Seen in Mori Ogai’s *The Half Day*

廖育卿（淡江大学日本語学科助理教授）

プログラム用要旨

嫁姑問題にてこずる高山峻蔵博士の家庭内の事情について描かれた『半日』においては、外から嫁いできた「奥さん」と、その「奥さん」を中心に新しくできた「家庭」における姑は、対照的立場として描かれている。明治維新による影響により、「良妻賢母」を尊ぶ伝統的家庭観は、「新しい女」の出現によって徐々に変容していった。そして、大家族から核家庭という新しい家庭の形に変貌したことに深く関与している。閉鎖的空間とされる家庭の中では、嫁も姑も「疎外者」になりかねない。本研究は嫁と姑との関係に着目し、家庭内の「疎外者」の意味の変容についての考察を踏まえながら、当時明治社会が求める理想的な女性像を描き出すことを試みる。